

IGAS2007 成功裡に閉幕

来場者数は130,164人、海外からも12,500人を超える

国際印刷機材展としては2度目となる「IGAS2007」が9月27日、1週間の会期を終え、成功裡に閉幕を迎えた。来場者数は7日間で130,164人、海外からも12,500人を超えた。

今回のキャッチフレーズは「プリントメディアの未来—信頼と進化」。出展規模は539社・4857小間で、前回のIGAS2003と比べ約100社・400小間を上回る規模となった。

開催初日の9月21日9時30分からは、主催者、並びに関係者多数参加のもと開会式が行なわれ、7日間にわたるIGAS2007の開幕を告げた。

開会式の冒頭、主催者を代表して挨拶に立った印刷機材団体協議会会長・社団法人日本印刷産業機械工業会会長の小森善治氏は、IGAS2007の開会を宣言した後、「展示内容の充実はもちろん、日本ならではの多数の試みを企画している」と、プリントメディアの先端・先進技術の展示コーナー、印刷技術を進化させデジタル映像技術を活用したVRシアターの上映、歴史的な印刷関連資料を有するミズノプリンティングミュージアムのコレクション展示などのイベントをはじめ、アジア主要国の印刷事情を各国の一流大学教授らが総括する国際印刷シンポジウム、ISO/TC130東京会議などの併催行事を含めて今回のみどころを紹介。「これらの行事に世界各国より多くの方をお迎えすることができ、IGASのグローバル化の進展を実感している。出展社にとってのみりある展示会に、また、来場者にとっては多くの知識と経験を得ることのできる展示会となるように協力をお願いしたい」と述べ、挨拶とした。

続いて来賓祝辞を述べた中野正志経済産業副大臣は、「IGASは1973年以来歴史と実績を重ね、IGAS2003からは国際機材展に位置づけられるなど、業界に果たす役割の非常に大きい展示会に成長した。これも偏に皆様の熱意の賜物である」と敬意を表した上で、「印刷機材は様々な産業を支え、文化の発展にも貢献してきた。さらにデジタル化の進展や情報インフラに対応し社会のニーズに応じていくことが期待されている。経済は回復しているものの、まだまだ地域間のバラツキ、中小企業の実感は乏しい。印刷機材はモノ作りの日本文化を支える礎である。日本経済が成長するにはこれまで以上にモノ作りに力を入れることが



大切」と述べ、経済産業省としてもこれまで以上に支援していく姿勢を示した。

次いで祝辞を述べた社団法人日本印刷産業連合会の山口政廣会長は、「IGASの果たす役割は非常に大きくなっている。グローバル化が進展し、市場環境も世界的に急変する中、印刷業界にとってそれに対応する体制を構築することは急務となっている。印刷業界が今後進むべきシステムや技術を名実ともに的確に示唆するものであることを期待している」と、IGAS2007の成功を祈念した。

なお、印刷機材団体協議会では「IGAS2011」を2011年9月21日(水)から27日(火)までの7日間、東京ビッグサイト全館を使用して開催することを決定。これにより、既に発表済みである2009年10月6日(火)から10日(土)の5日間に行なうJGAS2009と併せて、今後4年間の展示会スケジュールが確定している。

また、IGASとJGASの間の年に東京都印刷関連4団体が主催する展示会は、「PRIMEDEX (プリメデクス) TOKYO」の名称で行なわれることが決定している。

